

第6回白壁賞は前川浩樹氏らが、 第25回村上記念「胃と腸」賞は 山田義也氏らが受賞

2000年10月25日(水)、神戸国際会議場メインホールで行われた第40回「胃と腸」大会の席上、第6回白壁賞と第25回村上記念「胃と腸」賞の授賞式が行われた。第6回白壁賞は前川浩樹・他「Crohn病の長期経過—X線所見からみた予後予測」(胃と腸 34: 1211-1226, 1999)に、第25回村上記念「胃と腸」賞は山田義也・他「AIDSの消化管病変の臨床と病理」(胃と腸 34: 845-855, 1999)に贈られた。

司会の多田正大氏(多田消化器クリニック)から、まず白壁賞受賞者の発表があり、前川氏(東北大学第3内科、現: NTT 東北病院内科)が紹介された。本賞は、故白壁彦夫氏の偉業をたたえて、消化管の形態診断学の進歩と普及に寄与した論文に贈られるもので、「胃と腸」に掲載された全論文に加え、応募論文も選考の対象となる。今回は「胃と腸」第34巻に掲載された全論文と編集委員推薦1篇が選考対象となった。

選考委員会を代表して川口実氏(東京医科大学第4内科)から、選考委員会で慎重に審査が行われ候補論文が絞られた後、全編集委員による厳正な投票によって受賞論文が決定したとの選考経過が報告され、“前川先生の論文は、非常に鮮明なX線像が多数提示され、まさに消化管の形態診断学の進歩に寄与した論文と評価された”と述べた。

続いて、「胃と腸」編集委員長牛尾恭輔氏(国立病院九州がんセンター)から、“20世紀最後の白壁賞です。おめでとうございます”との祝辞とともに賞状と賞牌が授与された。引き続き、金原優医学書院社長からは賞金が贈呈された。

受賞者を代表して前川氏は、“思いがけず「胃と腸」の白壁賞という栄誉ある賞を受賞できたことを心から嬉しく思う。選んでいただいた「胃と腸」編集委員の先生方に心からお礼を申し上げるとともに、東北大学第3内科において長期にCrohn病の経過観察をしてきた下部消化管グループの先輩の先生方ならびに直接指導していただいた樋渡信夫先生に心から感謝する。今回の受賞を心の糧として今後ますます消化管の形態診断学の腕を磨き精進していきたい。本日は誠にありがとうございました”と感謝の言葉を述べ、満場の拍手を受けた。

続いて、第25回村上記念「胃と腸」賞の受賞者が発表



▲満員となった第40回「胃と腸」大会会場。



▲選考経過を述べる川口実氏。

され、山田氏(都立駒込病院内科)が紹介された。本賞は、故村上忠重氏の偉業をたたえ、消化器、特に消化管疾患の病態解明に寄与した論文に贈られるもので、「胃と腸」第34巻に掲載された全論文の中から選ばれた。

選考委員会を代表して川口氏は、白壁賞同様、選考委員会から推薦された候補論文の中から全編集委員の投票の結果選ばれたとの選考経過を説明し、“本論文はAIDSの消化管病変について、CD4陽性細胞数によっていろいろな病変があるということ、その内視鏡像をよく知り、適切な部位から生検をすれば特徴的な像が得られるということを、画像を通して示したことが高く評価された”と述べた。

牛尾氏からは、“来世紀もよい仕事をしてください。みな期待しております”との期待の言葉とともに賞状と賞牌が贈られた。続いて金原社長から賞金が贈呈された。

受賞者を代表して山田氏は“「胃と腸」賞をいただくことができ、驚いている。こういう仕事のできたのも都立府中病院の元院長の故田島強先生や、東京医科歯科大学(病因・病理学)に移られた小池盛雄先生をはじめとする



▲第6回白壁賞を受賞した前川浩樹氏.



▲第25回村上記念「胃と腸」賞を受賞した山田義也氏.



▲牛尾恭輔氏(左)から賞牌を授与される前川氏(右).



▲牛尾氏(左)から賞状を授与される山田氏(右).

病理の先生方のおかげである。例えばサイトメガロウイルスの封入体を1個見つけるのにも大変なご苦労をしていただいた。また食道の病変が多く、外科の吉田操先生、消化器内科の榊信廣先生、内視鏡科の門馬久美子先生など多くの先生方のアドバイスをいただいた。「胃と腸」の編集委員の先生方には、選んでいただき感謝している。もともと感染症に興味があり、癌と感染症をメインにしている駒込病院に研修医で来たが、1990年以前からサンフランシスコの友達の友達がAIDSだったこ

とがあり、HIVに対し医者として早く治療してあげられないかと思っていた。そういうことから、AIDSで消化管に関して何かあった場合には、早く発見をして、最良の治療をして早く社会復帰してもらいたいという願いを込めながら、今までやってきた。これからAIDSだけではなく、ほかの疾患に対しても努めていこうと思う。ありがとうございました」と述べ、会場から盛大な拍手を受けた。